

いわて復興だより

がんばろう！岩手 つながろう！岩手

三陸復興

第 89 号

平成 27 年 8 月 1 日号

復興に向けて歩み続ける岩手県の今を紹介します

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災津波。発災以来、全国そして海外からも多くの温かい励ましや御支援をいただいております。心から感謝申し上げます、この「つながり」を大切にしていきたいと思っております。

厳しい陽射しが照りつけ、海で遊ぶ家族や子どもたちの笑い声が響き、短い夏を満喫する岩手県沿岸地域。復興に向けて歩み続ける岩手の今を紹介します。

沿岸各地で海開き 海水浴シーズンへ

平成 27 年 7 月 12 日（日）、久慈市の舟渡（ふなど）海水浴場を皮切りに岩手県沿岸各地の海水浴場の海開きが行われ、本格的な海水浴シーズンが始まりました。

今年の海水浴場は、種市海浜公園江戸ヶ浜海水浴場（洋野町）、舟渡海水浴場（久慈市）、侍浜岩場海水プール（久慈市）、普代浜海水浴場（普代村）、浄土ヶ浜海水

浴場（宮古市）、藤の川海水浴場（宮古市）、荒神海水浴場（山田町）、吉里吉里（きりぎり）海水浴場（大槌町）の計 8 ヶ所が開設されます。

猛暑が続く今シーズン。県内外から多くの海水浴客が訪れ、沿岸地域の観光面での復興に期待が寄せられています。



浄土ヶ浜海水浴場（宮古市）



荒神海水浴場（山田町）



吉里吉里海水浴場（大槌町）

お問い合わせ

- 種市海浜公園江戸ヶ浜海水浴場（洋野町）
／洋野町水産商工課 0194-65-5916
- 舟渡海水浴場（久慈市）／久慈市商工観光課 0194-52-2123
- 侍浜岩場海水プール（久慈市）／北侍浜野営場 0194-58-3855
- 普代浜海水浴場（普代村）／普代村商工観光対策室 0194-35-2111
- 浄土ヶ浜海水浴場（宮古市）／宮古市商業観光課 0193-68-9091
- 藤の川海水浴場（宮古市）
／宮古市教育委員会生涯学習課 0193-68-9120
- 荒神海水浴場（山田町）／山田町観光協会 0193-34-3775
- 吉里吉里海水浴場（大槌町）／大槌町商工労政課 0193-42-8725

県内初！ 仮設商店街から本設へ「三陸サイコー商店会」

大船渡市

東日本大震災津波で被災し、大船渡市三陸町越喜来（おきらい）で仮設店舗として営業を行ってきた商店街が、平成 27 年 7 月 12 日（日）、本設店舗「三陸サイコー商店会」としてオープンしました。

県内沿岸部で、仮設商店街が本設店舗に移行したケースは初めて。

「三陸サイコー商店会」は、平成 24 年 2 月に仮設商店街として営業を開始した

「浦浜サイコー商店会」の事業者たちが参加し、新たな場所に建設された商店街。飲食店や衣料品店、理髪店など 9 つの店で構成されており、住民が利用可能な集会所も設けられています。

同商店会は、市役所支所や診療所、建設中の災害公営住宅の近くに位置し、今後、地域の核としての役割が期待されます。



オープンした「三陸サイコー商店会」

平成 27 年度岩手県被災家屋等太陽光発電導入費補助金について

お知らせ

県では、東日本大震災津波で家屋や事務所に被害（半壊以上）を受けた方が家屋等の修繕や新築等を行う際に太陽光発電システムを設置する経費の一部を支援しています（1kw 当たり 2 万円で 10kw 未満のもの）。詳しくは HP をご覧ください。
<http://www.pref.iwate.jp/kankyuu/seisaku/energy/002959.html>



お問い合わせ：岩手県環境生活部環境生活企画室 ☎ 019-629-5326

田老第一中学校 3年生が 復興道路工事現場で体験学習

宮古市

平成 27 年 7 月 9 日（木）～7 月 10 日（金）、宮古市立田老第一中学校（菅井雅之校長、生徒数 100 人）の 3 年生 30 人が、田老地区で職場体験学習を行いました。

この職場体験学習は、生徒が田老地区の企業や工事現場を訪問して、職業についての知識や理解を深めると共に、事業所の方々から復興への思いを学ぶことを目的として実施されたものです。

体験学習の場は、三陸沿岸道路「宮古田老道路」、消防署、介護老人福祉施設、菓子店、宿泊施設等。

復興道路として整備が進む「宮古田老道路」の工事現場には、7 月 9 日（木）に 3 人、7 月 10 日（金）に 4 人の生徒が参加し、同道路の椗内地区などのトンネル工事現場を見学。トンネルができる工程を学んだ後、生コンクリートの品質を確認したり、鉄筋の組み立て作業、測量作業等を体験しました。



トンネル工事を見学する生徒
(写真提供：田老第一中学校)

被災地・三陸の復興へ向け、多くの若者が情熱を注いでいます。連載「未来のさんりくびと」では、毎号、復興への熱い想いを秘めた若者を紹介していきます。

第 42 回目は、小笠原 果美さんを紹介します。

PROFILE

岩手県矢巾町在住。

岩手県立大学社会福祉学部福祉経営学科 3 年。地域福祉を学んでいる。

大学に通う中で「一般社団法人子どものエンパワメントいわて」が主催する「学びの部屋」に参加。被災地で子どもの学習支援活動を行う。

現在は、子どもの遊び支援企画にも参加。

まだまだ少ない子どもの遊び場

大学 1 年生の終わり頃から「一般社団法人子どものエンパワメントいわて」が主催している「学びの部屋」という、被災地で行う子どもの学習支援活動に参加するようになった小笠原さん。

その後、「NPO 法人いわて GINGA-NET」に参加し、復興支援に関心のある全国の大学生を岩手県に招くなど、被災地の子どもの遊びや学

未来の さんりく びと

岩手県立大学 3 年生
小笠原 果美
(おがさわら かぐみ) さん



小笠原さんからのひと言：
沿岸も内陸もおんなじ「いわて」です！
もっとたくさんのこどもたちの笑顔が見たい！

「日米高校生サミット in 陸前高田 2015」が開催されました

陸前高田市

平成 27 年 7 月 11 日（土）、「日米高校生サミット in 陸前高田 2015」（主催：NPO 法人陸前高田市支援連絡協議会 Aid TAKATA）が、同市高田町のコミュニティホールで開催されました。

参加したのは、独立行政法人国際交流基金の米国高校生訪日研修事業で来日した 32 人の米国人高校生と県立高田高等学校、県立大船渡高等学校の生徒 25 人。

この高校生サミットは「ノーマライゼーションという言葉の知らないまち」をテーマに、まちづくりを考えることを目的に行われたもの。

高校生たちは日米混合の 8 つのグループに分かれ市内を巡り、高齢者や身体障がい者、外国人や子どもにとっての問題点を探し、それらの解決策を検討、発表しました。

これらの解決策は、後日、提案書として陸前高田市に提出される予定です。



サミットに参加した日米の生徒 (写真提供：陸前高田市)

びの支援を行って来ました。

かさ上げ等の工事が進み、街や景色がどんどん変わることに、そこで暮らす人々は複雑な気持ちだろうと思うと同時に、子どもと触れ合う中で、沿岸地域には子どもが遊ぶ場所がまだまだ少ないと小笠原さんは感じています。

実際に沿岸に足を運んで

「震災直後、内陸に住む自分は震災の話に触れてはいけないのではないかと思います、沿岸を訪れることにためらいがありました。しかしある時友人の誘いで沿岸に行く機会があり、地域の人達から話を聞く中で、そこに住む人々の想いが少しずつ分かってきました。」と話す小笠原さん。

「内陸で暮らしている人も、同じ岩手県民として実際に沿岸に足を運び、地域で暮らす人々の想いを感じてほしいと思います。その上で、今の岩手県の状況を県外にも広く発信できればいいと思います。」と、今後の支援についての抱負を語りました。

岩手県の被害状況

平成 27 年 6 月 30 日現在

- ▶ 人的被害 死者（直接死）：4,672 人 行方不明者：1,129 人
- ▶ 建物被害（住家のみ、全半壊） 26,163 棟

被害状況等の詳細

義援金・寄付金の募集等

[いわて防災情報ポータル](#)

[検索](#)

皆様のご支援、ありがとうございます

平成 27 年 6 月 30 日現在

- ▶ 義援金受付状況 約 183 億 9,738 万円 (91,638 件)
- ▶ 寄付金受付状況 約 196 億 8,654 万円 (7,378 件)
- ▶ いわての学び希望基金（※）受付状況 約 76 億 3,508 万円 (15,843 件)

※ 被災したこどもたちが勉強やスポーツ等に励めるよう「くらし」「まなび」の支援に使われます。

ビジュアル豊富な【いわて復興だより [Web](#)】もご覧ください!! <http://iwate-fukkoudayori.com>

いわて復興だより 第 89 号 平成 27 年 8 月 1 日号 企画・発行：岩手県復興局復興推進課 ☎019-629-6925

いわて復興だよりバックナンバーは

[いわて復興だより](#)

[検索](#)

編集・印刷：シナプス

【次回のいわて復興だよりについて】次回は 8 月 15 日号の発行を予定しています。